

## 「放蕩息子」のたとえ

ルカによる福音 15:1-3、11-32

(そのとき、) 徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と不平を言いだした。そこで、イエスは次のたとえを話された。

「ある人に息子が二人いた。弟の方が父親に、『お父さん、わたしが頂くことになっている財産の分け前をください』と言った。それで、父親は財産を二人に分けてやった。何日もたたないうちに、下の息子は全部を金に換えて、遠い国に旅立ち、そこで放蕩の限りを尽くして、財産を無駄使いしてしまった。何もかも使い果たしたとき、その地方にひどい飢饉が起こって、彼は食べるにも困り始めた。それで、その地方に住むある人のところに身を寄せたところ、その人は彼を畑にやって豚の世話をさせた。彼は豚の食べるいなご豆を食べてでも腹を満たしたかったが、食べ物をくれる人はだれもいなかった。そこで、彼は我に返って言った。『父のところでは、あんなに大勢の雇い人に、有り余るほどパンがあるのに、わたしはここで飢え死にしそうだ。ここをたち、父のところに行って言おう。「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください』と。』そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。息子は言った。

『お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。』しかし、父親は僕たちに言った。『急いでいちばん良い服を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足に履物を履かせなさい。それから、肥えた子牛を連れて来て屠り

なさい。食べて祝おう。この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ。』そして、祝宴を始めた。

ところで、兄の方は畑にいたが、家の近くに来ると、音楽や踊りのざわめきが聞こえてきた。そこで、僕の一人を呼んで、これはいったい何事かと尋ねた。僕は言った。『弟さんが帰って来られました。無事な姿で迎えたというので、お父上が肥えた子牛を屠られたのです。』兄は怒って家に入ろうとはせず、父親が出て来てなだめた。しかし、兄は父親に言った。『このとおり、わたしは何年もお父さんに仕えています。言いつけに背いたことは一度もありません。それなのに、わたしが友達と宴会をするために、子山羊一匹すらくれなかったではありませんか。ところが、あなたのあの息子が、娼婦どもと一緒にあなたの身上を食いつぶして帰って来ると、肥えた子牛を屠っておやりになる。』すると、父親は言った。『子よ、お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部お前のものだ。だが、お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。』」

## 説教

放蕩息子が回心して帰ってきたので、父は赦し、喜んで受け入れた。その一方で放蕩息子の兄は身勝手な弟を赦すことができず、再会を喜ぶこともできずにふてくされていると父がこう言って慰めた。

**子よ、お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部お前のものだ。ルカ**

15:31

この喜べない兄は問題です、この兄はまったく福音を理解していません。だから皆さんは兄のようではなく、父の赦しと喜びを学びましょう、でも、この読みは正解を含んでいますが、福音読解としては誤読です。

「放蕩息子のたとえを長年誤解していた（「主日の聖書を読む」より）」と、和田神父は語ります。「放蕩息子を回心する者のモデルと受け止めていたが、どこにも回心したとは書いていないことに気づいた」といいます。

指摘されて福音を読み返してみると回心とか悔い改めとか書かれていません。

**そこで、彼は我に返って言った。『父のところでは、あんなに大勢の雇い人に、有り余るほどパンがあるのに、わたしはここで飢え死にしそうだ。ここをたち、父のところに行って言おう。「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください」と。』そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ルカ 15:17-18**

放蕩息子は「我に返った」だけで悔い改めたわけではありません。罪を犯した云々、資格はありません云々も、ただ飢えを満たす方便だとすると「我に返って」は後悔、反省とは関係ないことになります。

和田神父はこう結論しています。

それゆえ、このたとえのテーマは、父である神の憐れみ。

(「主日の聖書を読む」C年 p67)

私も、このたとえを語るイエスさまの度量の深さ、大きさに改めて気づきました。

**神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。ニコリ 5:18b**

神は条件をつけることなくキリストのゆえに「和解」に応じてくださることをパウロもきっぱりと宣言しています。わたしたちは誰でもイエス・キリストのゆえに、イエスさまの十字架のゆえに、罪人でも、悔い改めができなくても、神のもとに変えることができます。父である神の憐れみに頼りましょう。

**お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。ルカ 15:32**

-----